

そのときから現在まで記録できる句数は、四千あまり、俳諧かいの連歌は、長短六  
へんあまりで、おどろくほどの作品を残しています。『浅香市集』あさかいちしゅうはその代表の一  
つです。

たよ女メが長い間希望していた、「江戸上り」のぼが実現じつげんしたのは、四十八オのときで  
した。そのときの記録を『すががき日記』として、残しています。これは、たよ  
女の長い一生のうちで、ただ一つの紀行文きこうぶんでした。それにちよつとふれてみまし  
よう。

大田原おおたわらのやどりはいとつかれて句なし。明あれば

那須なすのはらにかかる。二荒高ふたらはらなど聞きゆる大

岳西だけにそばたち、よもぎすすきの枯かれふしたる

さまはいとものすごきけしきなりけり

春浅し風は西ふく四五十里